第１４回　第２分科会会議録（概要）		場　所	新宿区役所　第１分庁舎 ７階　研修室
日 時	平成 18 年 1 月 14 日 午前 10 時 00 分～午後 12 時 00 分	記録者	【学生補助員】 岸本
		責任者	区事務局（青柳）

会議出席者：　３４名　傍聴者　０名
（区民委員：　２８名　学識委員：　２名　事務局：　４名　）

■配付資料

１．第 14 回　新宿区民会議第２分科会　次第
２．資料１　第 13 回　分科会会議概要
３．資料２　介護について
４．資料３　生きがいについて
５．資料４　バリアフリーについて
６．資料５　「中間まとめ」のための参考資料
７．次回開催通知
８．提言シート

■進行内容

１．開会
２．中間のまとめに向けて
３．その他
４．閉会

■会議内容

【発言者】●：区民委員　◎：学識委員　○：区事務局

１　開会

○：おはようございます。それでは第 14 回分科会を始めます。前回までで３つのテーマについての議論はひととおり終了しました。これから２月の中間発表会に向けて、第２分科会としての発表内容をまとめていきたいと思います。

２　中間のまとめに向けて

○：それではまとめに向けての議論について、まず成富先生からお話いただければといます。

◎：これから、まとめの議論をしていきますが、分科会のみなさんは、これまで何かのテーマを検討してそれをまとめて発表する機会というのはそれほどないと思

います。

そこで、どうまとめるか、という参考として、資料５を用意しました。前回までのテーマ「バリアフリー」の検討を始める最初に、私からお話した「要援護者」の基となった国、厚生労働省が設置した「社会的な援護を要する人々に対する社会福祉のあり方に関する検討会」がまとめた報告書の抜粋です。国レベルであり、また課題も少し違うのですが、報告書の形式の参考になると思います。

報告書としては、まず、基本的な考え方を示します。これは、現状を踏まえた望ましい方向性ということです。次に現状と問題点を挙げ、その次に課題、どのようなことを解決していけばいいか、を示し、最後に解決の方策、という順序が普通です。

まず、基本的な考え方ですが、これは、どこにポイントを置くか、ということを示す部分で、全体像、総論的部分を提示します。この報告書では、これまでの福祉政策が貧困対策中心だったのに対し、現代の、つながりの弱い社会を問題にあげ、つながりの再構築への取り組みという考え方を示しています。

次の２，３では現状と問題点を示しています。ここでは、生活上の問題が広がってきて、それまでの福祉にはない範囲が出てきたこと、また、問題が見えにくくなってきたことをあげています。

次に４，５で課題をあげ、次に６，７では具体的な解決の方策を示します。ここでは、支援だけではなく、問題を知ること、発見のしくみを重視することを示しています。

中間まとめでは、文章で報告書を作成し、それに基づいてプレゼンを行います。このような流れの形式を一つの見本として下さい。中間まとめですので、まだ最終的、具体的提言まではなくても良いのですが、基本的な考え方、現状、課題くらいまでを中間まとめで報告できたら良いのではないかと思います。

次に、我々の課題について、岩崎先生から説明していただきます。

◎：資料２を御覧下さい。これは、介護について議論で出たことをまとめたものです。

最初に４つのキーワードとして、望ましい方向性を３つ、それと考え方を１つあげました。３つの内、１つめは「高齢や障害になっても、豊かに暮らせる社会」の実現。２つめは、「地域交流を活性化し、顔と顔がみえる関係づくり」を構築する。３つめが「健康の維持と介護予防を促進する体制」の整備です。

そして考え方として、文章でまとめました。核家族化や単身世帯が多くなる中で、「高齢や障害になっても、豊かに暮らせる社会」を構築していくためには、一人ひとりの健康維持とともに介護予防の事業を推進することと、地域の交流を豊かにし、問題の早期発見に努めることが求められる。これらを実現する前提条件には、課題の認識と対応策を学べる「情報提供システム」を整備することが重要になって

くる。

この「情報提供システム」の部分で補足すると、今まで問題をみてきましたが、介護のことや高齢者のことをいろいろな世代が前もって知っておくことが必要です。学びの場として、体験的な学習のできる機会をもつこと、また、相談場所などスムーズな援助の仕組みを構築する必要があります。

現状は、４つに整理しました。【地域の交流】では、１、地域や町会とのつながりの大切さを感じるが、少子化や核家族化の進行に伴って地域とのつながりが希薄化している。２、数年後には、団塊の世代が「地域に戻ってくる」が、その多くは地域とのかかわりが持ちにくい状態になっている。３、近隣とのつながりが少ないため、子育てや介護について一人で抱えて悩んでしまったり、一人暮らしや高齢者夫婦の方が引きこもりになってしまうこともある。

【健康の増進】では、夫婦・家族が心身共に健やかで快適に生活を送るためには、自助努力による健康管理が大切となる。

【情報】では、１、意見交換の中で、こういったサービスがあればという話が出ると、実はすでに区がサービスを行っているという件が多々あった。これから１０年後には区だけでなく、NPO や民間事業者とたくさんの所から提供されることになっていく。知らないことでサービス利用ができないのは問題である。２、情報提供という点では、情報誌等インターネット以外の情報提供も考えるべき、情報周知の資源では町会の機能の一つである行政情報を周知することがあるが、なかなか新しい住民が入ってこない、入りにくいという問題もある。ここでの補足としまして、インターネットでの情報提供も行いますが、高齢者にとってはそれ以外も整備する必要があります。また、これまで町会重視の考えでしたが、新しい人が入ってこなくなってきています。新しい人が入れるようなサポートが必要です。

【介護問題】では、１、介護については、当事者・家族介護者の支援を考える必要がある。２、ご本人の望んでいる介護と家族が望む介護に大きな差があるということ、その差をどういう風に埋めていくか。３、サービス事業者に関して言えば、ケアマネージャーにも素人とベテランがおり、そのほとんどが別々の企業で営利を目的としているため質にも差がありサービスの向上を望めない。４、サービス利用手続きの簡略化や業務の効率化を図り、必要とするサービス・施設がすぐに利用できるよう制度の改善が望まれる。５、高齢者が尊厳をもってサービスを受ける権利があるにも関わらず、なかなか質の良いサービスを受けられない。

解決の方向性としまして、【地域の交流】では、１、団塊の世代が退職前から少しでも地域とのつながりを持てるような仕組みづくりが必要。２、地域の中で気軽に子育てや介護について情報交換ができるネットワークの構築や、交流できる場所が歩いて行けるところにあるといい。３、まずは地域の中で一人ひとりの区民が日常的なあいさつやご近所づきあいが自然にできるような関係づくり＝誰もができ

る小さな一歩が「みんなが安心して暮らせる街」に繋がっていく。４、地域や自治会活動に新たな人が参加できる雰囲気作りの配慮やサポート体制の整備。５、社会活動･社会参加活動をサポートするコーディネーター的かかわりをする人材の育成が必要。現在では社会福祉協議会で行われています。今日も来てくださっています、田宮さんのような人がたくさんいてくれるといいと思います。NPO や区民会議で勉強した有志の方などで地域にその経験を還元していくこともできるでしょう。６、高層マンション等の新規の自治会と、既存の町会・自治会の連携と、これに対する行政側の支援や団地の活性化を図る仕掛けづくり。

【健康の増進】では、１、各自が日常生活から生活習慣病や、転倒・骨折しないよう気をつけるとともに、自治体としても健康診断や健康管理の体制を整備していく。２、年をとるということや、介護が必要となるということが具体的にどういうことなのかをしっかり理解し、正しい知識を得られる学習会を定期的に開催する。

【情報】では、１、既存のサービスや資源を有効に活用できるよう、情報を一元に管理して必要な方に周知していくシステムの開発が急務。２、新宿区独自のケーブルテレビを活用したような仕組みや、かつての「むらさき手帳」のような高齢者との媒介になる術があってもいい。

【介護問題】では、１、当事者については、教育・啓発活動を中心に、家族介護者の支援には、介護者の喪失感に伴う精神的なサポートや家族会の組織、介護教室の開催も必要。２、ケアマネージャー協会のような機関をつくり、研修や連絡調整を行い地域の介護力の向上を図る必要がある。３、小規模なグループホームの整備などにより住み慣れた地域で生活できる環境を整えたり他世代同居をすすめ、刺激と見守りがある生活を過ごしてもらうことも考えられる。４、サービスの質の向上のために、民生委員や第三者による監視や評価、地域全体で支えるしくみがほしい。以上が解決の方向性です。

次の頁には今説明したことを、図式化してみました。最終目標は、高齢や障害になっても豊かに暮らせる社会、としました。現状は、核家族化・単身世帯増と地域関係の希薄化から、介護や子育てなど生活課題が深刻化しています。その解決のために、地域関係の再生、健康の増進、情報の整備の三点をあげました。具体的案として、地域に戻る人材である団塊の世代に注目し、地域に対する知識の普及として「第２の成人式」のようなことを行うことを提案しました。そこで、地域にある課題やサービス資源を知ってもらい、高齢や障害になることの理解を深め、地域の人々との新たな関係づくりを目指します。これらの基本的な考え方は、障害や高齢になることの共通認識をすすめ、全体として地域の福祉力を高める、ということです。その対応策として、家族介護者への支援、分かり易い情報提供のしくみづくり、体験学習を含めた次世代の育成や世代間交流の促進、があげられます。介護についての考え方は以上です。

○：次に「生きがい」「バリアフリー」について、これまでの議論を分類しましたので説明したいと思います。

＜生きがい＞

資料３を御覧下さい。

これまで、生きがいについては、４つに分けて議論が進められたのではと思います。１に最終理念を、生きがいとは、全ての人の生活の質をいかに高めていくかということ。豊かな気持ちで日々を過ごし、老い、生涯を終えることのできる社会。としました。２、３には現状で、２、生きがいは、人それぞれ異なる多様なものであり、変化するものである。３、生きがいそのものは個人的なものである。個人、地域、行政それぞれが何をすればよいか。４は別の視点になりますが、団塊の世代の力をいかに活かしていけるか。とまとめました。

１、生きがいとは全ての人の生活の質をいかに高めていくかということ。豊かな気持ちで日々を過ごし、老い、生涯を終えることのできる社会を作りたい、ということですが、出てきた意見は、生きがいとは生きる価値であり、また、人になくてはならないもの、生きがいがなければ人は生きていかれない、ということでした。また、生活の質を高めていくということであり、時間に余裕のある人だけではなく、全ての人に重要なものである、ということを考えていかなければならないでしょう。介護する側も心豊かに生きていかなければ介護される側も幸せにはなれません。そして、誰もが生きがいを持ち、住んでいる街で終焉を迎えられる地域社会。極論だが、「豊かな気持ちで死を迎えられる社会を築く」ということが出てきました。

２、生きがいは人それぞれ異なる多様なものであり、変化するものである。とまとめました。生きがいとは人それぞれで多様なものです。また、生きがいは同じ人間でも若い時、中高年、老人と、状況によって変化していくものです。今の生きがいだけでなく、将来の状況も考えていくべきです。現状として、平均年齢が８０歳を、高齢者人口も全体の２割を超えようとする現在では生きがいの概念は大きく変わってきています。４人に１人が高齢者であり、高齢者が大きな発言力を持つと同時に責任ももっています。また、高齢者とは介護が必要な人だけではなく、多くの方は元気に活動できる方です。むしろ課題は介護も、また、介護以外の生きがいも重要です。また、高齢者の１人世帯、夫婦のみの世帯は非常に多くなっています。それとも関係していますが、高齢者の団地居住者への対応も考えなくてはならないでしょう。視点としては、①他人とのかかわり②自分にとって生きがいとは③社会との関係の中でどう考えていくのかの３つにまとめました。区民メンバーの方のご意見ですが、知的障害のあるお子さんを育てる中で生きがいを見つけた、という方がおられました。障害や老化をマイナスの面から捉えるのではなく、多くのことを

学ぶという点からの視点を持つべきです。また、生きがいを感じる時は達成感が得られたとき、また、居場所を見つけることという意見も出てきました。

３、生きがいそのものは個人的なものである。個人、地域、行政それぞれが何をすればよいか、ということですが、特徴的な意見として、生きがいを得られる条件や公私の役割分担について考えていく。身体と心の健康維持も重要な課題である。生きがいを実現する要素として、①拠点が必要であり、施設の有効活用を考えること。②情報やネットワーク作り③人材の育成として、指導者、仲間作りが必要である、という意見がでました。また、高齢者に視点を当てると、高齢者は時間に余裕があること。従来の生きがい対策が余暇の充実という面が強かったが、既存の施設や高齢者クラブの利用者は少なくなってきています。元気な高齢者が社会的な力をどう発揮していくかを考えるべき、ということがありました。また、人は１人では生きていかれない、誰かと支えあわなければ生きていけない、という意見もありました。生きがいを感じてもらえるシステム作り、区の施策に何を提言するのか、団塊の世代にどう地域に関係してもらうのか、ということも出てきました。次にそれぞれを対象に応じてわけてみました。行政への意見としては、拠点、とくにことぶき館の活用についての意見がありました。また、廃校になった学校の空き教室を活用してもらいたい、という意見もありました。また、情報の伝達についても意見が出され、生きがい対策がされていても、知られていないという問題がありました。地域には、町会などの閉鎖性、高齢化、固定化について何か考えていかなければならない。見守り運動の必要性。高齢者クラブを活発に。という意見が出ました。また、個人として、生きがいは自ら探すものであり、また、そのためには健康も自分でつくるものである、という意見が出ました。

４、団塊の世代の力をいかに活かしていけるか。ということで、今後、団塊の世代が定年になり、地域へ戻ってきたとき、いかに対応するかという問題があります。これまで地域とのつながりが少ない団塊の世代をいかに地域に引き込めるのか、ということ。団塊の世代には能力があり、その能力を活かしてもらいたい、という意見が出されました。

＜バリアフリー＞

資料４をご覧ください

バリアフリーは、６つに分けて整理しました。１に目標を、一人一人を人として大切にしていく社会の実現、としました。２，３，４，５は現状です。６は提言の方向性、流れとしました。

１、「一人一人を人として大切にしていく社会」の実現。では、障害があるからといって生きる意味がない、違うということではないとし、乙武さんの話ですが「不便ではあるが不幸ではない」とこんなふうに感じられる社会が良いのでは、となり

ました。そこから、「人としてどの人も大切、どの人も社会の担い手」「迷惑をかけながらも生きていくことが大切」「人間お互い完全ではないのだから補い合うことが大切」としました。

２、バリアは物理的なものだけではない。制度的、心理的等さまざまなバリアが存在する。これは、ゲストスピーカーや区民の方の体験などからでた意見ですが、物理的なものだけではなく、物理的なバリアを取り除いても、制度的、心理的なバリアが社会的参加を阻むこと。また、物理的なバリアフリーの設備が全ての障害者にとって使い易いということはありえなく、障害の種類、度合いによって異なっていること。

３、バリア＝ハンディを持っている人は、障害者だけではない。外国人、ニート、ホームレス等幅広く考えていかなければならない。というところで、社会的にハンディを負った人が社会から取り残されていないか。外国人、ホームレス、ニートが社会参加を阻まれていないだろうか。という問題が出ました。また、障害は本人だけでなく、家族全体の問題でもあります。

４、障害者は決して他人事ではない。病気、事故、高齢化等さまざまな原因でだれもがなり得ることである。というところで、障害の多くは先天的なものでなく、障害には病気や事故、高齢といった後天的な原因から障害になってしまう、ということ。また、心の病気は誰が発症してもおかしくないものです。

５、私達はバリアに対して余りにも無関心、知識がないのではないか。これが、問題の悪化や深刻化を招いています。ゲストスピーカーのお話から皆さんも強く感じられたのではないかと思います。知ることの重要性について共通の認識を持つ必要があります。

最後に対応として、６、障害そのものをなくすことはできないかもしれないが、障害によるハンディ＝バリアは対応できるのではないか、という考えで提言の方向性、流れをもっていくべきではないか、としました。

最後に図でまとめてみました。障害（バリア＝ハンディ）への無関心・知識の少なさから、障害（バリア＝ハンディ）は特殊な問題・他人事と考えてしまい、そのことが、問題の潜在化、深刻化、解決への困難になっています。解決のためには、教育、普及啓発活動、体験交流（頭だけでなく、一緒に過ごすことで得られる経験が大事）から、障害に対する知識の普及を図ることが必要になってきます。障害（バリア＝ハンディ）は病気、事故、高齢、失業等により誰にでも起こりうる問題である。障害（バリア＝ハンディ）は物理的なものだけでなく、制度、社会に広く存在している。障害（バリア＝ハンディ）は私たち自身が作りだしているものもある。私たち自身の無理解、無関心が問題を深刻化させたり、解決を妨げている場合がある。ということを知る必要があります。基本的な考え方は、障害自体をなくすことができなくても、障害によるハンディを克服する手段を用意する、ということです。

対応策として、社会的支援を必要としている人たちへの支援。教育、就労、移動、生活等すべての面において、障害を持つ人が自立して生活できる環境を整備する。教育を通じて、障害を持つ人への偏見のない人間を育てる。ということが挙げられます。そして、最終目標として、一人一人を、人として大切にする社会、としました。

◎：これから皆さんに議論していただきたいのですが、今までの説明に 55 分かかっています。発表時間は 20 分ですので、どう発表するか考えなければいけません。この資料は出てきたものをなるべく落とさないように作った資料ですので、この中から、一番言いたい事は何かをみつけていく、強調点、アピール点をどこに置くかを考えてもらいたいと思います。３つのテーマの中でも何を柱にするのか、議論していただきたいと思います。

◎：発表に向けて、項目の検討と確認をして下さい。１，２，６班は一緒に、グループ討議に移ってください。

（グループ討議）

＜４班＞

●：介護については、高齢者一人一人で考えると全体の７割が合計所得金額が２００万以下であり、低所得者対策の充実の必要があると思います。

健康増進では、保健・医療・介護を連携した地域のコーディネーターが必要です。

生きがいについては、やはり安心できる充実した制度の中で死ぬことのできればいいと思います。

今回区民会議に参加して、行政がいろいろなサービスを行っていることを初めて知った。

また、情報提供では、テレホンセンターを作るのがいいと思います。行政でできる限界も知るべきだと思います。高齢者含め町会含め行政含め、連携を深めていくべきです。

＜まとめ＞

〇介護

・低所得者への対応（補助等の充実）

・地域のコーディネーター的人材の育成

〇生きがい

・制度の充実と地域の支えあい、双方の支援

・情報提供のテレホンシステムや行政の充実及び町会の連携

＜１，２，６班＞

●：私たちは主に介護について話し合いました。

特に、地域におけるネットワーク作りの必要性について指摘がありました。地域で助け合い、見守り合いといった活動をしようとしても、区、個人、町会、自治会、介護事業者等々、別々に活動していてなかなか情報交換もできません。

また、シルバー住宅、団地では高齢者優先で入れたりしますが、その後のアフターケアはありません。結果として高齢者が孤立してしまうこともあります。いろんな年代の人が入れる「街」作りが必要です。また、場所の確保や、連携のきっかけになる参加しやすいイベントの開催が必要です。

活動が一部の人のみに頼ってしまい、負担になる人も出てきます。負担にならないで活かせるようにできたらいいと思います。

＜まとめ＞

〇介護

・地域内のネットワーク、場所の確保、参加しやすいイベントの開催
・高齢者は入所して終わりでなく、そこから地域とのつながりが持てる支援が必要
・一部の住宅で、高齢者が集中する仕組みの改善と集会所運営の支援を！特に介護事業者と高齢者の結びつきが弱い。

＜５班＞

●：発表方法としては目標数値を出した方がいいのではないでしょうか。制約された20分という時間なので具体的な数字の整理をすると分かり易いと思います。

５班で主張したいところについては、介護保険の未利用者について調べる必要があるのではないか。その人たちはなぜ使わないのか、例えば知らなかったなどの原因や、低所得者の問題などを検証できるのではないか。

また、３つをテーマとして検討してきたが、３つとも究極的な目標は「人を人として尊重する社会の実現」になると思います。この目標を軸として、３つのテーマのつながりを示せればいいと思います。

＜まとめ＞

発表の前提として目標数値等の提示があって良い
→何を報告するか
介護保険の利用実態の分析から課題を明確化する
→例として、低所得者への対応の必要性
最終目標　“人を人として社会で尊重する”
⇒３つの分野の重なりとポイントを整理する

＜３班＞

●：まず、私達は介護、生きがい、バリアフリーの中で、介護が一番のポイントになるのではないでしょうか。そして、介護に重点に置きながら他をつなげていけばいいのではと思います。

２つめに、団塊の世代をコミュニティに引き込むのは難しいと思います。どう能力を引き出しながら主体的に活動してもらえるか、をポイントとしてあげます。

３つめにまとめ方ですが、分かり易く簡潔に図などを用いてできたらいいと思います。

４つめに全体の問題として、個人的努力は大事ですが、それだけで良いのかと言う点があります。国や厚生労働省は自己努力を強調し、社会保障を削っているように思います。今、高齢者が安心して暮らしていかれるために、１０年後もまた安心して暮らせるために、社会保障制度の充実についても触れるべきだと思います。同時に低所得者対策についても十分配慮すると言う点も触れるべきだと思います。

＜まとめ＞

①「介護」を中心に「生きがい」「バリアフリー」を結びつけて報告する

②団塊の世代への対応がポイント（主体性を引き出す仕掛け作り）

③わかりやすく図を用いて簡潔にまとめる

④個人の努力や気持ちに依拠しすぎ！！⇔社会保障の充実

→今の施策の充実を前提に更なる改善を

３　その他

◎：発表の仕方については次、次々回の２回でまとめていきます。

では、残りの時間で発表者の選出をしたいと思います。発表はパワーポイントを使いますが、４名の方にお願いします。学識委員と事務局で検討したのですが、鱒沢さん、藤乗さん、鈴木さん、加藤木さんにお願いしたいのですが、よろしいでしょうか。

（了承）

発表の形態については、４名が５分ずつ、或いは一人が中心、等決めていないので、ご意見いただければと思います。

○：２月１９日当日は受付、会場案内などお願いすることもあるかと思います。

４　閉会

○：それでは、本日は終了します。

＜次回日程＞

1 月 25 日（水）午後２時から４時　新宿区役所第二分庁舎　１階１－７会議室